

## 第1回 図書館建設検討委員会 議事概要

### 1. 開催日時

令和2年7月31日（金） 午前9時55分から午前11時10分まで

### 2. 場所

桜川市役所 大和庁舎 2階 第5会議室

### 3. 出席者

#### 【委員】

塚原 正彦、谷田部 由則、田島 貴子、濱野和 博、友常 梢、田口 瑞男、柴山 兼光  
仁平 昌則、栗林 浩

#### 【桜川市教育委員会】

教育長：稲川 善成

事務局：久見木 憲一、荻原 由紀恵、中島 崇教、大貫 浩子、矢島 賢人（生涯学習課）

### 4. 会議の内容

- (1) 検討委員会の現在に至るまでの経緯及び桜川市図書館建設検討委員会設置要綱について
- (2) 委員長・副委員長の互選について
- (3) 委員会の公開について
- (4) 図書館建設スケジュール及び基本構想の説明について
- (5) 委員意見
- (6) 次回開催について

### 5. 協議事項

- (1) 検討委員会の現在に至るまでの経緯及び桜川市図書館建設検討委員会設置要綱について  
○事務局から概要を説明した。
- (2) 委員長・副委員長の互選について  
○事務局案として委員長に塚原委員を、副委員長に濱野和委員を提案。満場一致で了承された。
- (3) 委員会の公開について  
○協議の結果、議事録を終了後に公開することとした。

#### (4) 図書館建設スケジュール及び基本構想の説明について

○事務局から概要を説明した。

#### (5) 委員意見

・基本構想を作る上で、図書館をどんな人がどのように使うのか考えて検討する必要がある。高齢者なら健康づくりを学べるような図書館、子育てならばコロナの影響による移住・定住なども視野に入れて、子育てにやさしい図書館を整備するなど。

・桜川市は真壁の重伝建や天然記念物のサクラなど、貴重な文化遺産が沢山あるので、そのあたりもどう取り込んでいくかという部分もある。

・アンケートでは、笠間図書館と比較されている傾向が伺える。子供たちが自分で行けて、勉強できるスペースができればよい。

・子供の利用を考え、気軽に楽しく使える図書館にしたい。筑西市のように立派でなくても良いので、未来を作る子供を重点的に考えて欲しい。

・今後検討するにあたり予算はどの程度確保しているのか。

⇒（事務局）財源は合併特例債で一部使われていない予算があるため、そこからの捻出を検討しているが、現在のところ確定したものは無いので、今後検討する規模に応じて決めていきたい。おおよそではあるが、類似自治体の規模を超えるようなものは難しいので、それらを参考にしながらコンパクトで機能的な図書館を目指す。

・伝承館では、幼児スペースに寝転がりながら本を読めて親しめるスペースを日当たりの良いところに作られているので、新たな図書館でもそのように作ればよいのではないか。また、夏休みには小中学生が多く、午前中は伝承館2階で勉強、お昼を食べて午後には図書館を利用し、親に迎えに来てもらって帰る、といった利用がよくみられる。平日は小さいお子さんを連れての方、お年寄りが多く見られるなど、来る人を想定してどういったものが良いかを検討していければと思う。

・蔵書については、最初は全書庫の半分くらいとかから徐々に増やしていけばよいと思う。

・佐賀県武雄市図書館でツタヤに指定管理を行った際、新規蔵書として数年前の中古本を入れていたことが批判された例もあり、管理方法として、直営・指定管理どちらで運営していくかよく検討する必要がある。

・図書館のない市としては後発だからこそできるものがあると思う。ICT機能を導入するなど特色ある図書館を考えてもよいのではないか。

・予算には限りがあるため、図書館利用者としてどんな人をターゲットとしていくかをはっきりさせて検討を進めるべき。

・新型コロナウイルスの影響もあり、他市では、学習スペースが市民でないと使えないといった例もあるため、図書館を整備するのは必要だと思う。

- ・この時代に合ったものとして、電子図書館の充実を進めていくのが重要である。
  - ・現在ある3図書館施設の集約化を進め、人的効率向上を進めると共に、市の図書館の中央館としての機能を活かしたものにしていけるべき。
  - ・コロナ対策も含めて、ICT機能を導入し、電子図書館、無人貸出の実現などにより、人同士が触れ合わなくても図書館が利用できるようにした方がよい。
  - ・維持管理費がかなりかかるので、最低限の維持管理費で済むように検討する必要がある。
  - ・予算のことを考えると、蔵書は最低限の5万冊程度でよい。
  - ・伝承館は駐車場が不足し利用者から苦情が出ることがあるため、よく検討する必要がある。
  - ・学習スペースとキッズコーナーはかなり充実させてほしいという意見がある。
  - ・笠間には図書館が3館ある。岩間は少し少なめだが、蔵書もどこも同じくらいある。
  - ・駐車場が狭いと利用しづらい。
  - ・小中学生及び高校生がよく利用するため、学習スペースを充実させるとよい。これから育つ子供たちに役立つ図書館を整備して欲しい。
  - ・利用者が今読みたい本を選んで差し出せる、こんな本もあったのかという発見を提供できるのが本来の司書（図書館）の役割であって、それができるのであればたくさんの蔵書は必要ない。
  - ・コロナ時代にあっては、集客力や貸出数を競うのではなく、オンライン上のサービスに主が移っていくことになる。それを突き詰めていけば、心配なコストの削減もできるのではないか。
  - ・真壁の町が重伝建地区になれたのは、各家の方々が自分の家の歴史を語れるからである。（図書館で）そういったファミリーアーカイブの保存に取り組むのも一つの視点ではないか。諸外国では学校の卒業アルバムも図書館で保存されていて、閲覧もできる。日本ではほとんど例はないが、非常にニーズは高いと思う。
  - ・平成29年度の請願が出た流れで、当時の文教厚生常任委員会では、合併特例債事業で「岩瀬駅跨線歩道橋・ミニ図書館事業」が入っているが、この事業との関係性を整理しなければならないとしていた。その整理がされなければ図書館を作るという流れにはなれないのではないか。
- ⇒（事務局）市関係課で協議を開始したところであり、方向性が定まり次第、議会等へ説明していく予定。
- ・図書館の建設予定地は利便性を考えて、誰でも行けるような場所に整備して欲しい。誰も行かないようなところに作って宝の持ち腐れにならないようにしてもらいたい。
- ⇒（事務局）現在はまだ具体的な土地は決まっていないが、次回の委員会の際には、基本構想（案）の中で出していく予定。

## (6) 次回開催について

○次回の開催は8月31日（月）午後1時30分から、大和ふれあいセンターシトラス2階のレッスン室にて開催予定。